

令和3年度		単位老人クラブ(会長名等)						
令和3年6月1日現在								
No.	会 名	会 長 名	男	女	会員計	新規会員		
1	舟 場 若 葉 会	竹 内 義 浩	3	13	16	0		
2	み つ や 長 寿 会	工 藤 祐 子	7	21	28	0		
3	表 町 長 寿 会	高 木 清 志	11	19	30	3		
4	仲 町 登 喜 和 会	竹 嶋 逞 子	1	14	15	0		
5	曲 新 田 健 老 会	田 澤 順 子	6	18	24	0		
6	本 町 木 挽 町 長 寿 会	佐 藤 和 夫	16	31	47	1		
7	朝 日 町 延 寿 会	棚 内 武 志	20	38	58	2		
8	館 川 シ ニ ア 倶 楽 部	木 村 ト モ 子	7	19	26	6		
9	下 町 延 寿 会	町 田 信 保	6	16	22	0		
10	新 町 福 寿 会	土 岐 憲 一	6	21	27	1		
11	横 町 寿 楽 会	加 藤 司 郎	2	9	11	0		
12	伝 馬 喜 楽 会	佐 々 木 ト ミ 子	12	20	32	0		
13	葛 野 長 寿 会	三 浦 登 美 子	2	39	41	3		
14	藤 越 長 寿 会	葛 西 英 雄	7	17	24	0		
15	中 島 千 寿 会	吉 本 時 秋	6	16	22	1		
16	小 畑 長 寿 会	成 田 早 苗	8	16	24	0		
17	矢 沢 長 寿 会	清 野 草 名 義	11	30	41	2		
18	水 沼 延 寿 会	吉 田 兼 男	6	5	11	0		
19	中 野 目 長 寿 会	神 ノ ブ 子	2	27	29	7		
20	西 中 野 目 長 寿 会	石 井 哲 子	5	41	46	1		
21	俵 舩 下 俵 舩 長 寿 会	横 嶋 正 信	12	27	39	1		
22	柏 木 堰 老 喜 会	工 藤 義 夫	8	19	27	2		
23	西 豊 田 豊 寿 会	北 山 勝 芳	19	32	51	0		
24	東 町 シ ニ ア ク ラ ブ	白 戸 治	13	20	33	1		
25	白 子 高 砂 会	相 坂 ナ ツ エ	7	8	15	0		
26	白 秋 倶 楽 部 み ず き	猪 股 和 彦	27	28	55	6		
27	福島第1老人クラブ	古 川 慶 次	17	19	36	0		
28	福島第2老人クラブ	間 山 由 吉	22	20	42	0		
29	榊 壮 寿 会 第 1	三 上 明	9	29	38	0		
30	榊 壮 寿 会 第 2	坂 岡 明	24	33	57	0		
31	常 盤 養 命 会 第 1	三 上 一	23	22	45	1		
32	常 盤 養 命 会 第 2	一 戸 了	25	20	45	4		
33	三ッ屋老人クラブ	齋 藤 剛 一	5	6	11	0		
34	徳 下 徳 寿 会	三 浦 進	23	13	36	0		
35	若松すこやかクラブ	佐 々 木 栄 次 郎	9	24	33	3		
36	久 井 名 館 松 葉 会	佐 藤 キ ク エ	12	24	36	0		
37	亀 田 悠 遊 会	高 木 伸 昌	10	11	21	0		
38	福 館 福 寿 会	對 馬 俊 秋	12	14	26	0		
39	富 柳 和 楽 会	太 田 昭 三	6	22	28	3		
40	若 柳 健 柳 会	榊 佳 子	6	7	13	0		
	合 計		433	828	1,261	48		

令和3年度がスタートし、例年であれば老連・専門部・単位クラブで事業が開始されているところですが、コロナウィルス感染の影響で殆どが休止状態になっています。

左表は、6月1日現在、令和3年度の単位クラブ会長と会員数をまとめたものですが、会員数の減少傾向が続いています。また、単位クラブ数も1クラブ減少しました。理由は水木地区に第一と第二のクラブがありました。第一と第二のクラブが「白秋倶楽部みずき」に統合して一つのクラブになったからです。

各単位クラブ会長の方々は、引き続き会員増強に留意し、新会員加入の呼びかけをお願いします。

下表は、令和3年度老連役員と各委員会の役員の方々です。

令和3年度 藤崎町老人クラブ加入状況			
	男	女	合計
60~99歳人数	2,466人	3,452人	5,918人
老連加入者数	433人	828人	1,261人
老連加入率	17.56%	23.99%	21.31%

理事					副部長	部長	役職	令和3年度 藤崎町老人クラブ連合会 役員
					佐藤佳子	氏名	役職	
					佐藤祐子		氏名	
					佐藤緑			
清野チル子	佐々木トミエ	佐藤キクエ	高木敬子	水谷玲子	工藤子	佐藤佳子	氏名	
総務			監事		理事		役職	
会計	三戸力ズ	齋藤君子	新谷力ツ		神ノブ子	田澤よし子	氏名	
榊佳子	佐藤佳子 <small>兼務</small>							

副委員長		委員長	令和3年度 町老連若手委員会 委員
浅利光子	佐藤文雄	加福哲三	
会計		監事	
永田由美子	小笠原タイ智	阿部和恵	

委員		委員長	令和3年度 町老連広報委員会 委員
清水稼志男	鳴海諄弘	大川雄弘	
委員			
館山新一	三上道子	三上一	

副会長		会長	令和3年度 藤崎町老人クラブ連合会 役員
神昭子	山村誠一郎	館山新一	
監事		吉田兼男	
事務局	成田了子	佐々木了子	
		高木洋一	

先輩に学ぶ

旧藤崎町老連文集「白寿」から

第一号 昭和57年度 (14)

藤崎小唄

表町 藤本 ちゑ

(山形小唄の曲でおうたい下さい)

一、ハアー

春の藤崎 ヨイトサノセ

りんごの花ざかり

色と恋との ふじ・デリシヤス世界一

ふじさきふじさき りんご町

ふじさき住みよい 良いところ

二、ハアー

夏の平川 ヨイトサノセ

花火の星がふる

灯ろう流しの火が ゆれる平和のシンボルに

ふじさきふじさき りんご町

ふじさき明るい 良いところ

三、ハアー

秋は取りいれ ヨイトサノセ

りんごにお米

愛と融和の 文化祭さあおいで

ふじさきふじさき りんご町

ふじさき豊かな 良いところ

四、ハアー

冬の平川 ヨイトサノセ

白鳥が飛ぶよ

岩木のお山に照り映えて

しあわせのシンボルよ

ふじさきふじさき りんご町

ふじさきすみよい 良いところ

詩

表町 藤本 ちゑ

春らんまんの花に 若き日を思ひ

夏はうらぼんの香煙に 亡き人を偲ぶ

秋は満月に 孫の面影をうかべ

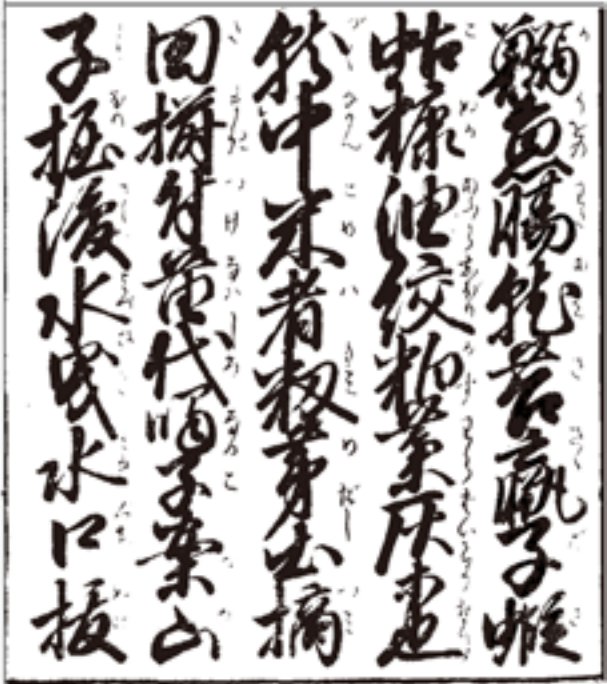
冬は雪の冷たさに 世の無情を感じず

生をあきらめ 死をあきらむるにあらねど

夕べに心身の安らぎを謝す

古文書に学ぶ (7)

【百姓往来絵抄】江戸書林版 ⑦



原文

干鰯魚腸乾苔贏子蝦
蛄糠油絞粕蕞灰等也
就中米者粉芽出摘
田撒付苗代鳴子案山
子堀浚水曳水口拔場

読み下し文

干鰯魚腸乾苔贏子蝦
蛄糠油絞粕蕞灰等也
就中米者粉芽出摘
田撒付苗代鳴子案山
子堀浚水曳水口拔場

先月は、コロナ関連記事の為、休みました。
先回の内容

農地（田）に関する土手や水路に関する堰板や水口・羽口を修理する事は勿論、目論見帳（年次計画書）に年次計画を立て必要な物を分別し、それに必要な費用を書き出すよう求めている。

内容は肥料の種類（下肥・馬糞や踏み草）で、今回はそれに続き、干鰯・魚腸・乾苔・贏子・蝦蛄・糠油絞粕・蕞灰等をあげている。

続いて米作全般に関する作業等の経費計上について書かれている。

主な語句の説明

干鰯 乾燥した鰯。最も重要な肥料であった。

乾苔 乾燥させた海藻類。

贏子 小魚類のこと。

蛄 雑魚・じゃっこ

糠油絞粕 ぬか油の絞りかすや菜種の絞りかす。

湿田に稲を直播きし、苗を間引きする田。

音を出して鳥獣を追ひ払う道具。

鳴子と同様に鳥獣を脅し追ひ払う人形。

◆ 歯なしの話 112 ◆

― 無駄と必要の間 ―

佐藤 透

今回のコロナ感染症は、以前のサーズ、マーズ等の疾患を経験した後にやってきた肺炎を伴う病気である。治療や、予防のために、必要であるマスク・ゴム手袋等は、アツという間に品薄となり、そして価格は高騰し、争奪合戦の様相を呈した。これらの製品は、それまでの間、我々医療関係者には問題なく安価に供給されていたのであるが、感染症の発生と共にまたたく間に不足感（品薄）を覚えた。普段は医療行為をしていて、それらの製品が我々の治療時に、全く無くなって困った事態には陥らなかったものであった。理由の一つは、政府や医師会・歯科医師会、また、篤志家などが時々手を差し伸べてくれ、必要な分量を確保してくれたことが大きいと思う。これらの製品は、普段から必要としているので、日頃より少々多めに在庫はしているが、経済（経営）の事を考えると、際限なく倉庫に眠らせるわけにもいかない。更に、コロナ流行により普段は使用しない一般の方々もこの競争に参加したのが（特にマスク使用）益々争奪戦に拍車をかけたと思われる。

さて、必要としていてもしなければならぬ。必ず要る。無駄に役立たない余計なこと。と辞書に載っている。この無駄の方であるが、トヨタ自動車に「改善」と称して部品等の在庫を多く抱え込まないで、必要な時に間に合わせた方が経済的に得であると唱えた。通常は確かにその通りであり、私も流通が滞る事の無い経済活動の中に於いては、手袋やマスクが不足するとは考えもしなかった。トヨタ自動車も、ネジ、バネ、ブレーキ等の部品が手に入らないと考えもせず、工場で生産をしている筈であるところが昨年春からの経験は、如何だったろうか。

私の医院に隣接のドラッグストアがあるが、コロナ発生と共に、早朝からマスクを手に入れるために行列をしていた。基礎疾患を持った患者さん達は、掛かりつけ医に行くのにマスクをしないとまずいらしく、手に入れるのに必死であった。

窮状を訴えた方に私の手元の無けなしの中から、数枚を分けた事もあった。物品はこのように、時の情勢により急激に事情が変化する。そんなことを、皆様一人ひとりとは、強く感じたのではないだろうか？メーカーの生産活動が活発化し、今では落ち着きを見せている。

その一方で、マンパワーの方であるが、例えば、医師・看護師などの人材は、工場で生産活動をするようにはいかない。今、首都圏などには、医師・看

護師・ベッド・救急のための器材等が不足している。機器等もおおい補えるものと思うが、それを使用する医師・看護師は、これこそおいそれとは教育できないのである。医師は、普通でも6年の大学生活にプラスして、専門の技能や経験が必要となる。看護師も同様に、4年間の在学と専門職の経験が必要となる。特に重篤な患者には、人数も多く必要で、とても奮闘をしている。では、専門職のスタッフをどれ位確保すればよいのだろうか？緊急時と通常時では、まるでその数は違うであろう。多分誰にも、答えることは出来ないのではないだろうか？潤沢な数は欲しいだろうが、まずは人件費等を考えると二の足を踏むことは間違いない。何か事がある時の為に準備することは、必要であろう。しかし、何に對しどれだけという答えは難しいと思う。

今回のコロナに対する感染症専門の知識を持った方々が、毎日のように、テレビに顔を出している。よくこれだけの先生方がいるもんだと、つくづく感心させられた。また、そのコメントの的確なことも有り難かった。

さて、物品とマンパワーとは別の物であることは言うまでもない。そして今回のことで、その過不足は急激にやってくることも経験した。これに備えるための準備の難しさも十分に理解した。そこで重要なことに思うのは、多少の無駄も時には必要であり、これを抱える程の余裕が、国民生活に豊かさを与えるのではないかと、言うことであろう。

そんなに出来の良いと思えない私の頭でここまで考えが及んだが、皆様は如何にお考えでしょうか。皆で次の緊急時に慌てない為に一考してみては。

短歌

大森の環状列石はろぼろと

聳ゆる岩木嶺そよげる若葉

日本一大きな局のアナ達が

毎日続く嘘の日本語

ふる里の潮の香恋て侘めど

重たきヤマセそれさえ阻む

リンゴ「ふじ」誕生八十年祝す

役場に町花「藤」の花咲く

海野比呂子

浅利 茂雄

藤村みち女

清水稼志男